



「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| ◆野鳥データベースのはなし(埼玉)・・・1 | ◆普及室からのお知らせ・・・14 |
| ◆愛知県支部 案内人サポーター講習会報告・2 | ・探鳥会リーダーズフォーラムの締め切りが迫っています！ |
| ◆探鳥会訪問記・・・5 | ◆今月の購読者数・・・16 |
| ・森に音をひろいにいこう(もりおか) | ◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について17 |
| ・特集・会員を増やすための探鳥会① | ◆編集後記・・・17 |
| ◆探鳥会保険集計結果・・・12 (2017年9月分) | |

◆野鳥データベースのはなし(埼玉)

日本野鳥の会埼玉から、支部で運営している野鳥データベースについて、ご紹介いただきました。

■はじめに

なんらかの形で野鳥観察データを対象としたデータベースを作成している支部は多いようですが、利用するソフトウェアや考え方に違いがあると思います。機会をいただいたので、埼玉の例を紹介させていただきます。

■データベース導入の経緯

日本野鳥の会埼玉(以下、埼玉)の役員会で、『埼玉県野鳥分布調査』報告書用の野鳥分布図を作成するためにGIS(地理情報システム)を導入するという話が出ました。しかし、分布図はExcelのグラフ作成機能でも描けます。私はデータを整理・分析することを重視して、データベース用ソフトウェアの導入を提案しました。それが承認され、Microsoft Accessを使った野鳥データベースを作成することになりました。

■野鳥データベースの基本構想

電子化した野鳥データは、印刷物など書かれたものに比べて、利用価値が格段に向上します。そこで野鳥分布調査に限定せず、探鳥会、カウント調査、野鳥情報などもデータベースの対象とすることにしました。

野鳥分布図の作成を考慮すると、観察場所の

情報は最も重要な項目です。埼玉の野鳥データベースの中では、場所情報は1辺約1kmのメッシュで区切られた「3次メッシュ区画」を使用することにしました。それぞれの区画は、8桁のメッシュコードで表されていますので、データベースの中では場所の情報は8桁の数字で表されていることとなります。もちろん、数字だけだと分かりにくいので、その区画がどの市町村であるのかというような情報も一緒に入れるようにしました。

この場所情報の表示方法は、1985年から1990年に行った前回の県内野鳥分布調査を踏襲しています。また、全国規模でデータを集約する本部などへのデータ提供の際にも必須です。最近では、地図を見ながらメッシュコードを調べられるウェブサイトができて便利になりました。

使用者を限定しないものにする 것도、長期運用という観点から重要なことです。そのため、Accessやデータベースに関する知識がなくても使えるように、データ処理をプログラムによって自動化するとともに、マニュアルを読まなくてもある程度の操作ができるように、作業画面に極力説明を入れることにしました。

また、いくつかの方法を組み合わせた入力データのチェック機能により、データの間違いを

最小限にできるようにしました。

■野鳥データベースの活用例

データベースをフル活用して作成した『埼玉県野鳥分布調査』報告書は、埼玉のウェブサイトで「活動内容」→「調査・研究報告」と入ってご覧ください。(リンク：

http://www.wbsj-saitama.org/chousa_kennyuu.html)

野鳥の変化を把握することもできます。埼玉県内探鳥会での“野鳥の出現率”(記録された探鳥会数/探鳥会実施回数)を年単位で求めると、出現率の高くなった鳥、低くなった鳥など、様々な鳥の経年的な変化が見られます。出現率の高低は生息数の多少を反映していると考えられますが、その例を図に示します。

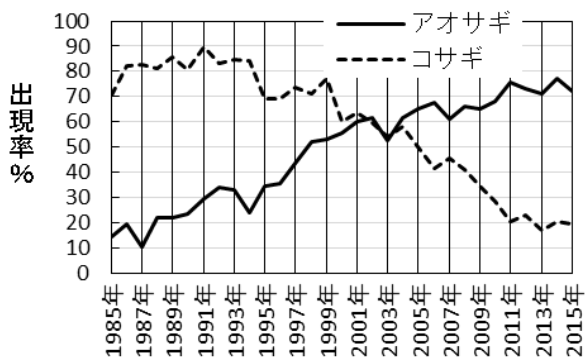


図 県内探鳥会での出現率の年次変化

■今後の課題と展望

埼玉においては、データベースを将来にわたって継続させるための体制づくりが課題です。一つの地域だけでも、探鳥会のデータから鳥に関する興味深い情報を得られますが、全国規模になれば更に別の面も見えてくるでしょう。本部では、探鳥会のデータによる全国的な野鳥の変化傾向の解明を計画しているとのことです。それを通じて、全国で行われている探鳥会の重要性が明らかになることを期待しています。

将来、全ての支部においてメッシュコードで鳥の生息場所を示したデータを蓄積し、それを本部が集約して全国の状態を把握できる体制が整備されれば、日本野鳥の会の存在意義が一層高まるのではないのでしょうか。

■おわりに

野鳥データベースを作成したい支部があれば、プログラムの無償提供と導入までのサポートを行うことも可能です。お問い合わせください。(財団普及室 tancho-staff@wbsj.org までご連絡ください。)

■参考資料

地域メッシュ統計の特質・沿革(総務省統計局)
市区町村別メッシュコード一覧(総務省統計局)
埼玉会誌『しらこぼと』2017年9月号

(日本野鳥の会埼玉 調査部/森本國夫)

◆愛知県支部・案内人サポーター講習会報告

9月30日(土)に、愛知県支部で案内人・サポーター講習会が開催され、普及室より安西、堀本が講師として参加しましたので、その様子を紹介します。

今回の研修会は、案内人(リーダー)未経験の方を主な対象に、探鳥会のリーダーを補佐する「サポーター」を増やす目的で開催されました。支部では昨年より探鳥会参加者からアンケートをとっており、その中で、入会を希望されるのは「感動・親切・心地良さ」を強く感じた人たちであることが分かりました。そこで、「探鳥会に参加者と気軽に話が出来るサポーターを増やしたい」と考えるようになったそうです。また、リーダーを増やし、新たな探鳥会を立ち上げ、支部の活性化に繋がりたいという思いもありました。

■概要

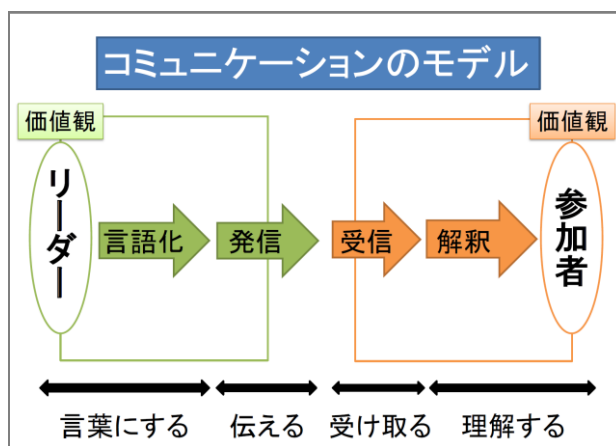
- 【日時】2016年9月30日(土)
13時~16時30分
- 【場所】名古屋市北生涯学習センター
(愛知県名古屋市)
- 【参加者】愛知県支部 30名
財団普及室 安西、堀本
- 【テーマ】「参加して良かったと思える探鳥会にするためには何が大切か。」
- 【プログラム】
(1) 13時10分~15時40分
A.「来て良かった探鳥会を考える 参加者とのコミュニケーション」(堀本)

B.「探鳥会の歴史と案内人のやりがい」(安西)
 (2) 15時40分～16時10分
 愛知県支部からの報告と意見交流
 ＊17時～19時に懇親会あり

■講習会の内容

(1) A.「来て良かった探鳥会を考える 参加者とのコミュニケーション」(堀本)

探鳥会をリーダーと参加者のコミュニケーション活動として捉え、この過程でどんなことが起きているかについて解説しました。リーダーが参加者に何かを伝えるとき、4つの過程に整理することができます。リーダーが伝えたい内容を「言語化」する過程、音声として「発信」する過程、参加者が音声を「受信」する過程、聞き取った音声を「解釈」する過程です。



▲リーダーから参加者に伝わるまでの4つの過程

言語化…考えを言葉にする

障害：誤解を招く言葉、専門用語を使う
 工夫：難しい言葉を使わない、補足する

発信…言葉を発声する

障害：声が届かない
 工夫：マイクを使う、教材を使う、表情／目線／身振り／手振りを意識する

受信…言葉を聞きとる

障害：ほかに気を取られて聞いていない・聞きもらす、足場が悪い、危険がある、周囲が騒がしい、終了時間を過ぎている、天候が悪い、疲れている
 工夫：落ち着いて聞ける環境を選ぶ、時間を守る、様子を見て早く切り上げる

解釈…聞き取った言葉を理解する

障害：言葉が分からない、頭がいっぱい
 工夫：相手の立場を考える、質問をして相手の知識や興味を知る

▲4つの過程における障害要因と工夫

4つの過程で、何がコミュニケーションの障害となるか、またそれを防ぐためにはどんな工夫が出来るかを考えました。

最後に、4つの過程すべてに共通するのは、「参加者の気持ちになって考える」ことの大切さであり、参加者だったときの気持ちを忘れずに思いやりのあるリーダーになって欲しいと話しました。

B.「探鳥会の歴史と案内人のやりがい」(安西)

始めに「鳥類とヒトとの共通点」「色や模様多様性」など、野鳥の魅力の話があり、そのような野鳥を多くの方に知っていただく上での探鳥会の歴史と意義を確認しました。そして日本野鳥の会の探鳥会であるならば、単に野鳥に関心のある方を増やすだけでなく、当会の理念を普及することも大切であることが強調されました。

案内人のやりがいとして、「還元を前提にすると認識は深まり、感動は倍増する」こと、また案内人には知識や経験以上に、「新鮮な感性」や「教えるのではなく、紹介する、伝える」といった「謙虚で、相手に配慮した親切な対応」が大切であることが共有されました。また案内人にはいろんなタイプの方がいた方が良く、それぞれの長所を活かして活動して欲しいと呼び掛けられました。



▲話を聞く参加者の皆さん

(2) 愛知県支部からの報告と意見交流

愛知県支部で「勧誘力UPプロジェクト」を担当されている佐久間さんから次のように取り組みの報告がありました。

『支部では、会員数の減少を受けて、2年前に勧誘力UPプロジェクトを立ち上げました。探鳥会の状況を調べると、年間約150回開催、約3,000人が参加し、そのうち約4割は非会員という全国的にも高い数字でした。ネットで

簡単に情報が得られる時代であることを鑑み、会員を増やすためには、①調査や保護活動をしていることや、会の理念を訴えること、②誘わなければ入らないことを意識することが必要だと考えました。

初めて探鳥会に参加した人には、住所を記入してもらい、手紙を出し、会の説明と入会のお誘い、アンケートの記入をお願いすることにしました。昨年は約 180 通出し、約 16%の回答、今年は既に約 230 通出し、約 25%の回答があり、両年とも回答者の半分以上が、入会案内の資料送付を希望されました。』

続いて、サポーターへのお誘いがありました。『未会員へのアンケートを見ていると、探鳥会に参加して「良かった」と思った方から入会しているように思います。「良かった」と回答する方は、理由に鳥が見られたことを書く方もいますが、多くは、「親切にしてもらった」という回答です。初めての参加者は不安を感じているもの。もし各探鳥会に、数名のサポーターがいて、参加者に声かけをしてくれたら、その探鳥会の雰囲気はずっと良くなります。ぜひサポーターになってください。』

■まとめ

研修会に参加して、まず案内人候補の方が 30 名近くいらっしゃることに驚きました。話を聞いてみると、皆さん、探鳥会でリーダーの新井さんに声を掛けられたと話していました。(新井さんには、2016 年の探鳥会スタッフ通信 10 月号に「探鳥会案内人や支部役員の人材確保について」記事をいただいています。

<http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201610.pdf>)

また参加者同士でとても仲が良いように感じましたが、それは新井さんが力を入れていた宿泊探鳥会に参加したことで、仲が深まっていたようです。

佐久間さんによると、講習会終了後に、10 名以上の方がサポーターになっても良いと名乗りをあげてくださったそうです。今後も愛知県支部独自の会員を増やす取り組みに注目していきたいと思います。

今回の講習会の企画者でもあった新井さんは、講習会の前に持病により亡くなりました。これまでのご活躍に敬意を表しますと共に、心からご冥福をお祈りいたします。

(普及室／堀本理華)

森に音をひろいにいこう（もりおか）

日本野鳥の会もりおか（以下、もりおか）では、2016年6月に視覚障害者のための探鳥会を開催されました。（探鳥会スタッフ通信 2016年8月号

<http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201608.pdf> で報告）

そのもりおかが、今度は聴覚障害者を対象とする観察会の対応をされるということで、さっそく参加してきました。

【日程】2017年10月7日（土）
8時00分～12時00分
【場所】滝沢森林公園（岩手県滝沢市）
【天候】雨
【参加者】7名

■いきさつ

今回のイベントは、株式会社岩手リオン補聴器センターという補聴器の販売会社により、耳の不自由な子どもたちのコミュニケーションの場を作ることを目的に企画されました。

同社によると岩手県内に住む難聴児は約300人。子どもたちの中には補聴器をつけていても、屋外だと騒音で人の声が聞き取れず、次第に家にこもりがちになりコミュニケーション不足になる子どもも多いそうです。しかし耳が不自由だからこそ、もっと積極的に人とコミュニケーションをとる機会が必要なのではないか。そして自然の中でなら人や森の生き物とのコミュニケーションが体験できるはず。そこでこの自然観察会を企画することになったとのこと。



▲イベント開催のあいさつ

そして観察会の成否は、子どもと自然をつなぐ案内役にかかっています。県を通じて、視覚障害者探鳥会の実績があるもりおかが紹介され、このプロジェクトがスタートしました。

■当日の様子

当日は、あいにくの雨の中でしたが、親子連れ2組の計7人が参加されました。もりおかからは、メインのリーダー2人とその補佐として支部の幹事5人が参加されました。

今回の観察会では、メインのリーダーにはピンマイクを取り付け、子どもたちにワイヤレス補聴援助システムを使ったガイドが行われました。私もこの機械をお借りして使用感を試してみましたが、この機械のレシーバーは耳の穴をふさがないで装着するため、自然の生の音とガイドからの鮮明な音声の両方が聞こえてきます。水のせせらぎの音や葉っぱに雨粒が当たる音などもよく聞こえましたので、こうした野外での観察会には大変適したものだと思いました。しかし残念ながら、価格が十数万円と高価だったことと、参加者の人数分のレシーバーが必要ということで、通常の探鳥会への導入には難しいと感じました。



▲ワイヤレス補聴補助システムの送信機

参加者は池に浮かぶカルガモを望遠鏡で見たり、枝にとまるシジュウカラの気配を感じたりしながらリーダーからの解説に聞き入っていました。そして、ところどころにポイント地点が用意されていて、野鳥の声あてクイズや観察ビンゴなど、子どもたちの興味を引き付ける仕掛けがありました。



▲池で休むカルガモを観察

雨のため傘をかざしながらの観察会となりましたが、みなさん大変楽しんでいらっしゃる様子が伝わってきました。そして、時々親子の間で手話でお話されている光景が見られましたが、それ以外は普通の観察会と何ら変わることはありませんでした。たぶんちょっとした働きかけ次第で、耳の不自由な子どもたちはもっと自由に自然観察を楽しめるようになるでしょう。ハンディキャップのある方々も普通に自然観察を楽しむことができる社会が早く到来するといいなとあらためて思いました。

さて、当日はテレビ局2社、新聞1社が取材にいられていて、夕方のニュースでも映像が紹介されていました。社会的にも関心が高いイベントであることの表れだったのだと思います。

■支部の方にお話を聞きました

観察会終了後、もりおかの皆さんにハンディキャップ探鳥会についてのお考えを伺いました。

＜ハンディキャップ探鳥会に取り組む理由＞

『ハンディキャップのある方と健常者の間には、はっきりとした境界があるわけではありません。ハンディキャップのある人は特別な存在ではないと思います。自分たちもやがて年老いて体が動かなくなるし、目や耳も聞こえなくなる。私はそうなっても、できるだけ野外へ出かけて野鳥を見ることを続けていきたい。体の不自由な人のための探鳥会は、将来自分たちが楽しく老後を過ごす準備でもあると思っています。』

＜企画するとき重要なこと＞

『一つは他団体との連携です。今回のような観察会は支部だけではできません。大学、企業、異分野の団体との連携が必要だし、特に一緒に事業に取り組むパートナー団体との信頼関係は重要です。昨年、視覚障害者の探鳥会をおこなった時にも、何度も視覚障害者支援のNPOと打ち合わせを重ねました。』

『もう一つは、慣れた自分のフィールドで実施することです。それは、よく把握している場所で行う方が安心だ、ということもありますが、それだけではありません。ハンディキャップ探鳥会は、慣れていてよく知っているつもりのものであるとしても、いつもと違った感覚で歩くことになり、自分のフィールドを別の角度から見る機会になるからです。視覚障害者探鳥会を行なったときには、参加者が視覚ではなく、聴覚で正確に風景を感じているということに驚きました。これは健常者にはない感覚でした。一つの場所をこんなに違う感覚で見ているということに驚き、貴重な体験となりました。』

■まとめ

お話を聞きながら強く印象に残ったのは、もりおかが積極的に地域社会の課題に向き合いながら、大学や行政、地元企業、異分野のNPOなどと連携して活動を外に開いていこうとされている姿勢でした。「野鳥だけでなく、ハンデのある人とも共生する社会を作ろう」という理想に対して、自分たちの強みであるバードウォッチングという切り口で具体的な活動を展開されている。このことに大変大きな可能性を感じました。

支部では、岩手大学との交流が盛んで、学生の中には支部の幹事として幹事会に参加されている方もいらっしゃる。社会に窓を開いた風通しの良さが若い人たちにとっても魅力の一つになっているのかもしれない。そんな感想を持ちました。

(普及室／箱田敦只)

■特集・会員を増やすための探鳥会①■

2017年度「会員を増やすための探鳥会」は、現在のところ24支部で39回開催される予定です。今月号より、随時各地の様子をご報告いたします。今月は、苫小牧支部と福井県の探鳥会について、ご報告します。

【参考】表1. 2017年度「会員を増やすための探鳥会」日程一覧（2017年11月13日現在）

| 支部 | 実施日 | 実施場所 | 支部 | 実施日 | 実施場所 |
|--------|------------|----------|---|------------|-----------|
| 苫小牧支部 | 11/3(金・祝) | ウトナイ湖周辺 | 埼玉 | 12/2(土) | 大宮公園 |
| 福井県 | | 中池見湿地 | 奥多摩支部 | | 昭和記念公園 |
| 東京 | | 日比谷公園 | 千葉県 | | 江戸川河川敷 |
| 滝川支部 | 11/4(土) | 滝川西公園 | 札幌支部 | 12/23(土・祝) | 北海道大学構内 |
| 宮城県支部 | 11/5(日) | 青葉山公園 | 栃木 | | 永野川緑地公園 |
| 和歌山県支部 | 11/12(日) | 和歌山城公園 | 諏訪 | | 諏訪湖 横河川河口 |
| 大阪支部 | 11/19(日) | 長居自然史博物館 | 滋賀 | | 守山みさき自然公園 |
| 宮崎県支部 | | 平和台公園 | 鹿児島 | | 石橋記念公園 |
| 東京 | 11/23(木・祝) | 井の頭公園 | 神奈川支部 | 12/24(日) | 山下公園 |
| 奈良支部 | | 平城宮跡・水上池 | 大阪支部 | 12/3(日) | 服部緑地 |
| 滋賀 | | 南郷洗堰 | 栃木 | 12/9(土) | 鳥野目河川公園 |
| 京都支部 | | 鴨川 | 栃木 | 1/06(土) | 羽田沼 |
| 山形県支部 | 11/25(土) | 霞城公園 | 栃木 | 1/20(土) | 井頭公園 |
| 栃木 | | 栃木県中央公園 | 札幌支部 | 1/21(日) | 北海道大学構内 |
| 滋賀 | | 長等公園 | 栃木 | 2/03(土) | 小山運動公園 |
| 千葉県 | | 千葉公園 | 神奈川支部 | 2/11(日・祝) | 新治市民の森 |
| 茨城県 | 12/10(日) | 瀬沼 | 栃木 | 2/17(土) | なかがわ水遊園 |
| 京都支部 | 12/16(土) | 岡崎疏水 | 栃木 | 3/11(土) | 足利渡良瀬川 |
| ひょうご | | 明石公園 | 熊本県支部 | | ※詳細は未定 |
| 茨城県 | 12/17(日) | 小木津自然公園 | ※色付きの支部は、今年度「会員を増やすための探鳥会」をはじめ開催する支部です。 | | |
| 群馬 | | ぐんまこどもの国 | | | |

ウトナイ湖ビギナーズ探鳥会（苫小牧支部）

【日程】 2017年11月3日（金・祝） 14時00分～15時30分

【場所】 ウトナイ湖野生鳥獣保護センター（北海道苫小牧市）

【天候】 晴れ

【参加者】 31名（うち一般参加者27名）

【リーダー】 4名、財団職員2名

【お試し入会】 4名（一般参加者のうち約15%）

【広報】

＜インターネット＞財団HP、財団Facebook、支部HP

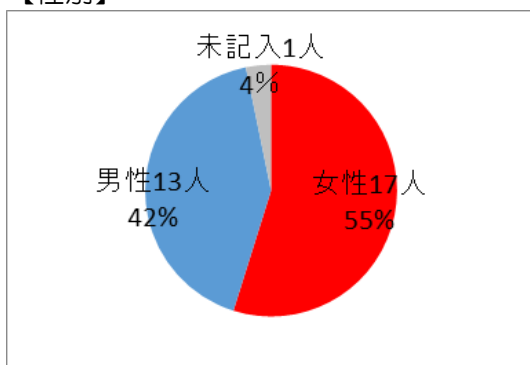
＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国51,602名に送信）

＜チラシ＞探鳥会のご案内（10月初旬から全国約80,000名に送付）

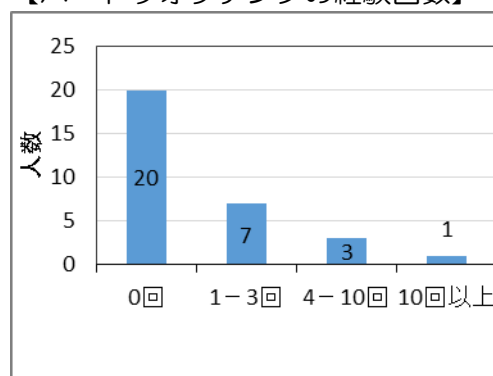
＜その他＞ウトナイ湖ネイチャーセンターでのご案内

【後援】 ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

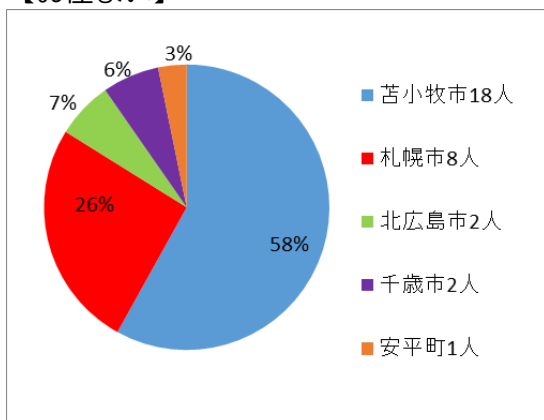
【性別】



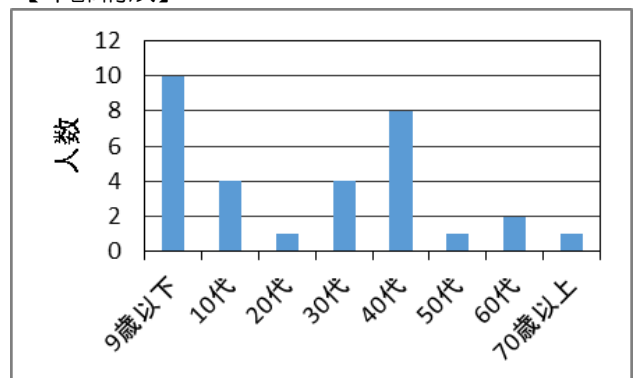
【バードウォッチングの経験回数】



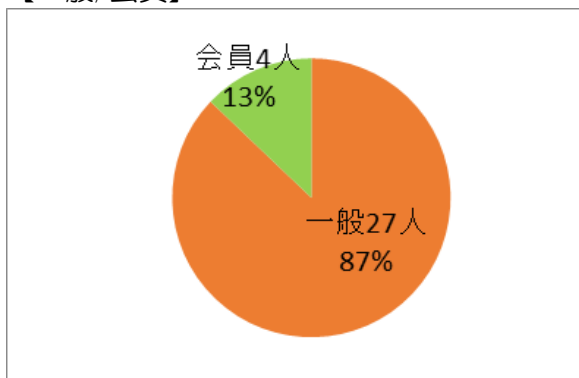
【お住まい】



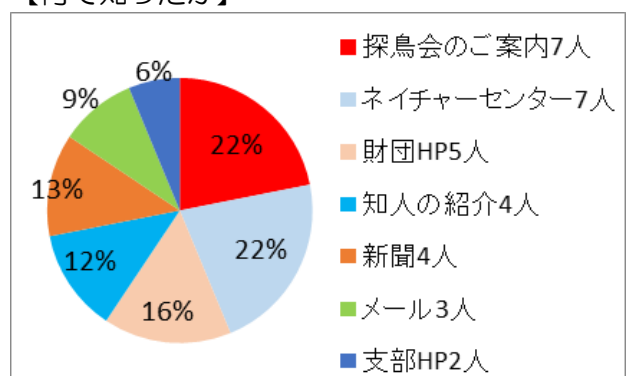
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



今年度から「会員を増やすための探鳥会」に参加の苫小牧支部。今回探鳥会の会場に選んだのはウトナイ湖鳥獣保護センターという環境省の施設です。ここから徒歩 20 分くらいのところにウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンターがあり、二つの施設を合わせてウトナイ湖には当会職員が 4 名レンジャーとして常駐しています。

探鳥会は事前申込制で実施し、広報としては普及室で発行した「探鳥会のご案内」と、ネイチャーセンターへのポスター掲示が効いていたようです。事前の受付では 32 名の申し込みがあり、小さなお子さんを連れた家族が多く、その他大学生のグループや札幌から参加された方などもいらっしゃいました。

■探鳥会の様子

午前中は、雷雨と雷が降るほどの荒天で、探鳥会の実施が危ぶまれていましたが、午後になり嘘のように晴れました。集合場所の鳥獣保護センターの集会室で、支部長の鷺田さんがあいさつをし、4 班に分かれてセンター周辺の観察路を歩きました。

野外へ出てまず最初におこなったのは、双眼鏡の使い方の説明です。今回の参加者は双眼鏡を持参している人が多かった印象でしたが、双眼鏡の使い方の練習を見るとあまり使い慣れていない様子でした。探鳥会に参加するので自宅にあった双眼鏡を持ってきた方や、慌てて購入された方もいたようです。

歩き始めてすぐに、湖岸へ出る前の林でアカゲラを双眼鏡で観察しました。しかし、まだ双眼鏡になれておらず、加えてアカゲラの動きが早いことと、枝の裏側に見え隠れしていたため、みなさん双眼鏡でとらえるのに苦労されていました。しかし、湖岸に出て、開けた視界の中で湖面を横切るダイサギを観察したときには思わず感嘆の声を漏らしていました。日の光を浴びながら悠然と羽ばたく真っ白なダイサギの美しさは、ウトナイ湖の雄大な風景と相まって見ごたえのあるものでした。また渡ってきたばかりのホシハジロやハクチョウなどを観察し、リーダーからガンカモ類のえさの取り方の解説を聞きながら観察しました。そして、対岸の木の枝にはオジロワシが止まっており、こちらはリーダーがセットしてくれた望遠鏡で観察しました。



▲観察の様子

探鳥会も後半に差し掛かったころ、林内のコースを歩きながら、シジュウカラやゴジュウカラなどのカラの混群にぶつかりました。参加者の皆さんもようやく双眼鏡の扱いに慣れてきたようで、今度は枝から枝へ移動する小鳥たちを真剣に双眼鏡で追いかけて観察していました。みなさんエナガを観察したいとおっしゃっていましたが、残念ながらエナガは見ることができませんでした。写真集の影響なのでしょう。エナガはカワセミと並んであこがれの鳥のようです。

小さな子どもたちには、楓の種を飛ばしプロペラのようにくるくる旋回する様子を体験してもらいました。思いのほかその子はこの種飛ばしの遊びを喜んでくれて、結局楓の種を大事に自宅まで持ち帰ったようです。

全体を通じて観察できた野鳥は 15 種類と決して多くはありませんでしたが、みなさん大変楽しそうに参加してくださいました。ウトナイ湖というフィールドの知名度、当会レンジャーが常駐していることからするとまだまだ高いポテンシャルを持っていることを実感しました。

■参加者の紹介

30代女性：「オオジシギのテレビを見て、オオジシギの健気さ、かわいさにやられてしまいました。」とおっしゃる札幌から参加のご夫婦。札幌支部の探鳥会に何度か参加されて、いつか行きたいと思っていたウトナイ湖での開催ということで今回参加されていました。

小学生：ウトナイ湖サンクチュアリの常連の子どもたち。レンジャーが対応した小学校の子どもたちが親御さんと一緒に参加されました。

(普及室／箱田敦只)

女子探鳥会 in 中池見湿地（福井県）

【日程】 2017年11月3日（金・祝）9時0分～11時30分

【場所】 中池見湿地（福井県敦賀市）

【天候】 晴れ

【参加者】 32名（うち一般参加27名）／事前申込制：申込者37名

【リーダー】 4名、財団職員2名

【広報】

＜インターネット＞財団HP、財団Facebook、支部HP

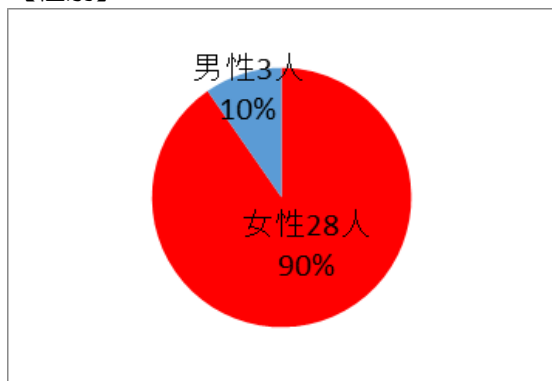
＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国51,602名に送信）

＜チラシ＞支部作成のチラシ、探鳥会のご案内（10月初旬から全国約80,000名に送付）

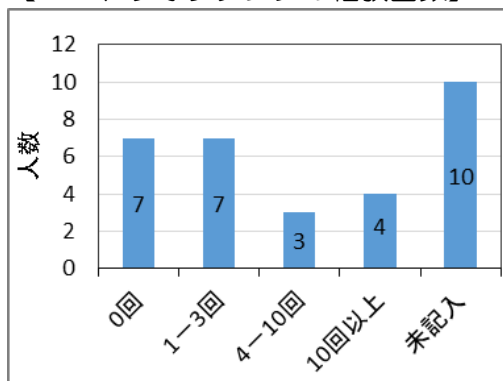
＜新聞＞福井新聞（10/24掲載）

＜テレビ＞嶺南ケーブルネットワーク（10/26）

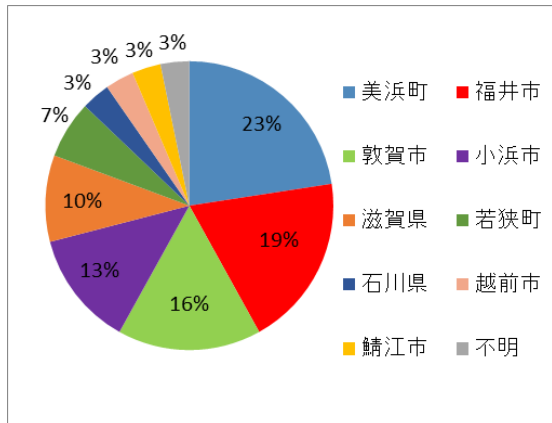
【性別】



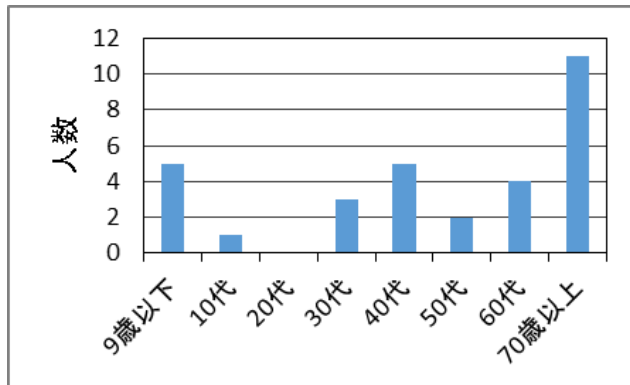
【バードウォッチングの経験回数】



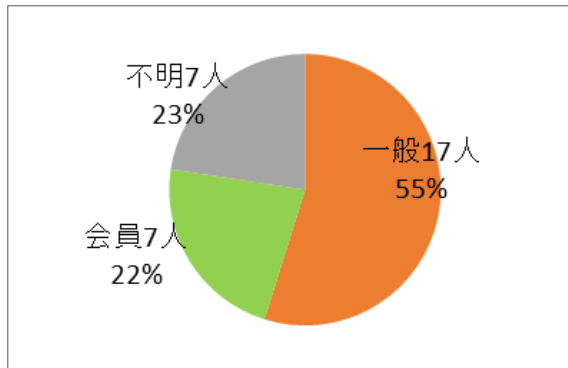
【お住まい】



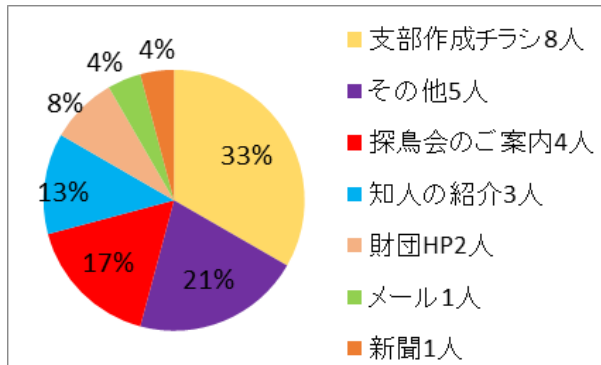
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■経緯・概要

日本野鳥の会福井県（以下、福井県）初の女子探鳥会です。中心となって準備を進めてきた理事の武田真澄美さんは、初めて探鳥会に参加した際、なかなかリーダーと話ができず、心細い思いをされたことから、「初めての人も楽しく参加できる探鳥会ができれば」と、考えるようになったそうです。また、福井県でも、女性や若手の力を生かし、支部の活動を活性化しようとして動きだしているときでした。そんななか、今回の企画が生まれ、約一年前から準備が進められてきました。昨年の中部ブロック会議での出会いがきっかけで、豊田市自然観察の森の大熊千晶レンジャーも応援にかけつけました。

フィールドは、ラムサール条約登録湿地の中池見湿地。湿地内には散策路やビジターセンターが整備されていて、初心者向け探鳥会のフィールドとしては安心の場所です。事前申込制で、当日の参加者は10歳以下の子どもから80歳代の方まで、幅広い年齢層でした。

■探鳥会の様子

天気は快晴で風もなく、絶好の探鳥会日和となりました。手作り看板が飾られた受付では、野鳥のお面をかぶったリーダーたちがお出迎え。お面を見た子どもたちから「この鳥知ってる！」などと声をかけられていました。

受付時に配布された資料セットには、入会案内、支部の探鳥会の案内に加え、中池見湿地の野鳥がまとめられた手作りのパンフレットや、会員が描いた美しい野鳥のイラストカードなど多種多様なものでした。これも、「女性は記念品があると嬉しいものなので」とのリーダーの心配りです。

全体を4班に分け、各班にリーダーが1人ずつついて案内することになりました。野鳥に詳しいベテランの班、小さなお子さんとその家族をまとめた班、初心者の班を2つという構成です。

ベテラン班から時間差でスタート。林の小道を5分ほど歩いてビジターセンターに到着すると、まずトレイ休憩をとりました。集合場所にはトイレがなかったので、参加者には嬉しい配慮でした。

休憩のあとは、湿地内でのバードウォッチングです。散策路を進んでいくと、ヨシの中からアオジやホオジロが飛び立っていきます。こちらが気づく前に飛んでしまうので、なかなか姿

を見ることは難しい鳥ですが、慣れてくると参加者の皆さんも自分で見つけられるようになりました。ほかにも、池を泳ぐカルガモやオオバン、円を描きながら上昇していくトビやハイタカなど、青空のもとでのんびりとバードウォッチングを楽しみました。最後の方には、その日に初めて会った参加者同士が談笑し合う様子がこころしこで見られました。

観察のあと、施設内にある古民家の囲炉裏端に集まると、おやつ焼き芋が用意されていました。これは、朝早くから、福井県の男性リーダーが準備したものです。2時間歩いた後にいただいた焼き芋に、身も心も暖かくなりました。焼き芋を食べている間、大熊レンジャーからその日に見られた鳥の解説があり、最後に文部省唱歌「雁が渡る」を鍵盤ハーモニカの伴奏で斉唱。和やかな雰囲気の中での幕引きとなりました。

■参加者の声

- わきあいあいとした雰囲気が良かった。二回目も開催してください。
- 子どもが鳥が大好きなので、親子で参加しました。事前に下見に来るほど楽しみにしていました。今日、いろいろ教えてもらえて、楽しい時間が過ごせました。
- こんなに大勢の方が来てくださって、福井の野鳥の会の将来も明るいと感じました。

■まとめ

参加者のみなさんが、終始楽しそうに過ごされていて、初めての女子探鳥会は大成功でした。

事前の参加者へ案内や、スケジュール、配布資料、おやつ準備まで、参加者への心配りが行き届いた探鳥会でした。事前申込制だったので、参加者の年齢層や家族構成、会員と一般参加者の割合などが事前に把握されていて、進行のイメージづくりに役立っていたと思います。

当日の運営の中心は、女性リーダー4名でしたが、焼き芋の準備や事前の下見などでは、男性リーダーたちの頼もしいバックアップがありました。リーダー一人一人が楽しみながら探鳥会をもちたてている様子が印象的でした。

終了後の話し合いでは、今回の結果を受けて、次年度の女子探鳥会の開催が決まり、さらに、福井県初のヤング探鳥会の企画も挙がっていました。福井県のリーダーの力に圧倒された一日でした。

（普及室／江面康子）

◆探鳥会保険集計結果（2017年9月分）

9月は65支部からご報告をいただき、計227回の探鳥会が開催され、のべ5,075人が参加されました。

表2. 9月の探鳥会保険集計結果（2017年9月15日現在）

| 支部 | 開催回数 (回) | 参加者数 | | スタッフ数 (人) | 合計人数 (人) |
|---------|-------------|-------|--------|--------------|-------------|
| | | 会員(人) | 非会員(人) | | |
| オホーツク支部 | 2 | 69 | 2 | 2 | 73 |
| 根室支部 | - | - | - | - | - |
| 釧路支部 | - | - | - | - | - |
| 十勝支部 | - | - | - | - | - |
| 旭川支部 | 1 | 11 | 0 | 2 | 13 |
| 滝川支部 | 1 | 14 | 1 | 1 | 16 |
| 道北支部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 江別支部 | - | - | - | - | - |
| 札幌支部 | 2 | 55 | 21 | 5 | 81 |
| 小樽支部 | 3 | 13 | 15 | 3 | 31 |
| 苫小牧支部 | - | - | - | - | - |
| 室蘭支部 | 1 | 20 | 1 | 3 | 24 |
| 函館支部 | - | - | - | - | - |
| 道南桧山 | - | - | - | - | - |
| 青森県支部 | - | - | - | - | - |
| 弘前支部 | 2 | 16 | 0 | 2 | 18 |
| 秋田県支部 | 5 | 57 | 8 | 5 | 70 |
| 山形県支部 | 3 | 21 | 5 | 4 | 30 |
| 宮古支部 | - | - | - | - | - |
| もりおか | 1 | 20 | 6 | 4 | 30 |
| 北上支部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 宮城県支部 | 4 | 45 | 11 | 8 | 64 |
| ふくしま | 2 | 35 | 0 | 4 | 39 |
| 郡山支部 | 2 | 24 | 1 | 6 | 31 |
| 二本松 | - | - | - | - | - |
| 白河支部 | 2 | 1 | 0 | 10 | 11 |
| 会津支部 | - | - | - | - | - |
| 奥会津連合 | - | - | - | - | - |
| いわき支部 | 1 | 22 | 5 | 1 | 28 |
| 福島県相双支部 | - | - | - | - | - |
| 南相馬 | - | - | - | - | - |
| 茨城県 | 8 | 70 | 71 | 12 | 153 |
| 栃木 | - | - | - | - | - |
| 群馬 | 4 | 45 | 20 | 12 | 77 |
| 吾妻 | 1 | 15 | 0 | 2 | 17 |
| 埼玉 | 3 | 61 | 48 | 29 | 138 |
| 千葉県 | 8 | 91 | 24 | 32 | 147 |
| 東京 | 11 | 265 | 5 | 47 | 317 |
| 奥多摩支部 | 13 | 190 | 61 | 40 | 291 |
| 神奈川支部 | 10 | 132 | 34 | 34 | 200 |
| 新潟県 | - | - | - | - | - |
| 佐渡支部 | - | - | - | - | - |

| | | | | | |
|------------------|-----|------|------|-----|------|
| 富山 | 2 | 27 | 13 | 3 | 43 |
| 石川 | 3 | 52 | 28 | 7 | 87 |
| 福井県 | 2 | 5 | 19 | 6 | 30 |
| 長野支部 | 3 | 33 | 34 | 6 | 73 |
| 軽井沢支部 | 1 | 9 | 7 | 1 | 17 |
| 諏訪支部 | 1 | 10 | 6 | 2 | 18 |
| 木曾支部 | - | - | - | - | - |
| 伊那谷支部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 甲府支部 | 1 | 20 | 6 | 2 | 28 |
| 富士山麓支部 | 1 | 5 | 2 | 2 | 9 |
| 東富士 | - | - | - | - | - |
| 沼津支部 | 1 | 10 | 0 | 1 | 11 |
| 南富士支部 | 1 | 15 | 6 | 1 | 22 |
| 南伊豆 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 静岡支部 | 3 | 19 | 0 | 5 | 24 |
| 遠江 | 4 | 86 | 12 | 17 | 115 |
| 愛知県支部 | 10 | 129 | 41 | 23 | 193 |
| 岐阜 | - | - | - | - | - |
| 三重 | 3 | 29 | 12 | 6 | 47 |
| 奈良支部 | 2 | 44 | 5 | 4 | 53 |
| 和歌山県支部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 滋賀 | 6 | 39 | 25 | 12 | 76 |
| 京都支部 | 7 | 142 | 46 | 18 | 206 |
| 大阪支部 | 16 | 334 | 58 | 77 | 469 |
| ひょうご | 5 | 127 | 146 | 22 | 295 |
| NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 | 2 | 10 | 3 | 2 | 15 |
| 島根県支部 | 1 | 2 | 2 | 1 | 5 |
| 岡山県支部 | 3 | 78 | 42 | 10 | 130 |
| 広島県支部 | 5 | 45 | 43 | 6 | 94 |
| 山口県支部 | 4 | 29 | 21 | 4 | 54 |
| 香川県支部 | 4 | 93 | 18 | 5 | 116 |
| 徳島県支部 | 6 | 72 | 41 | 6 | 119 |
| 高知支部 | 1 | 8 | 9 | 1 | 18 |
| 愛媛 | 4 | 34 | 26 | 6 | 66 |
| 北九州支部 | 4 | 45 | 9 | 4 | 58 |
| 福岡支部 | 7 | 83 | 27 | 16 | 126 |
| 筑豊支部 | 5 | 68 | 6 | 9 | 83 |
| 筑後支部 | 4 | 29 | 7 | 4 | 40 |
| 佐賀県支部 | 3 | 74 | 35 | 5 | 114 |
| 長崎県支部 | - | - | - | - | - |
| 熊本県支部 | 4 | 49 | 54 | 10 | 113 |
| 大分県支部 | 4 | 47 | 29 | 4 | 80 |
| 宮崎県支部 | 2 | 25 | 4 | 2 | 31 |
| 鹿児島 | 2 | 50 | 41 | 7 | 98 |
| やんばる支部 | - | - | - | - | - |
| 石垣島支部 | - | - | - | - | - |
| 西表支部 | - | - | - | - | - |
| 全国 | 227 | 3268 | 1222 | 585 | 5075 |

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆普及室からのお知らせ

■探鳥会リーダーズフォーラムの締め切りが迫っています！■

今年度の探鳥会リーダーズフォーラムは、愛知県名古屋市にて1月に行います。みなさまのご参加をお待ちしております。

◆◆◆実施概要◆◆◆

＜時期＞ 2018年1月20日(土)13:00
～21日(日)12:00

＜主催＞ (公財)日本野鳥の会 普及室

＜旅行実施＞ (株)南海国際旅行

＜会場＞ 邦和セミナープラザ
(愛知県名古屋市)

＜対象＞ 支部、連携団体の探鳥会に関わっている方

＜定員＞ 50名(定員になり次第締め切り)

＜参加費＞ 10,000円(1泊2日)

＜プログラム＞

1日目 13:30 オリエンテーション
ワールドカフェ「探鳥会について話そう(仮題)」

15:00 アイスブレイキング

15:30 全体会

16:00 第1分科会

18:00 チェックイン、休憩

18:30 夕食

19:30 懇親会

2日目 7:30 朝食、チェックアウト

8:45 第2分科会

10:15 休憩、移動

10:30 全体集会

12:00 終了

＜お申込み＞

■申込方法：下記の申し込み専用サイトからお申込ください。

<https://www.pac-sys.net/nmes-nankai/entry/?tanchou-kantou2018>

もしくは、件名に「リーダーズフォーラム申し込み」と記入し、(1)～(5)までを明記の上、tanchou-staff@wbsj.org までお送りください。

(1)お名前 (2)ご住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)希望分科会 A、B から第2希望まで選択 (A-①・A-②・A-③) (B-①・B-②・B-③)

■申込期間：2017年9月18日(月祝)～2017年12月15日(金)(定員になり次第締切)

■その他フォーラム全般についてのお問い合わせ：

(公財)日本野鳥の会 普及室 堀本、井上、箱田

〒141-0031

東京都品川区西五反田3-9-23 丸和ビル

Tel : 03-5436-2622

Fax : 03-5436-2635



▲昨年の様子

20日 分科会A(1日目)

A-①「参加者から支援を引き出す！ツバメのねぐら入り観察会の工夫」 堀本理華(普及室)

鳥がない時期の骨休み企画として人気が出てきたツバメのねぐら入り観察会。実は、その参加者はほとんどは会員ではない一般の方。そして、年々その参加者の数は増加の一途をたどっており、最近では会員増やグッズ販売の機会としても見直されてきています。

この分科会では、非会員が多く集まるツバメのねぐら入り観察会で、どうしたら参加者から入会や寄付などの支援を引き出すことができるかその工夫について考えてみたいと思います。

A-②「ヤング探鳥会は支部に何をもちこたすのか？人材発掘？先行投資？会継続？」

石亀明(東京)

3年前、東京と大阪の2支部だったヤング探鳥会の開催支部は、現在では、栃木、東京、埼玉、滋賀、京都、大阪、奈良、岡山に加え、今年度は愛知、佐賀が加わり10支部にまで広がってきました。これまでリーダーズフォーラムでは、開催支部拠点を増やすことを主軸に、支部同士の交流や情報交換を行ってきました。今回の分科会では、交流の段階からもう少し踏み込んで、ヤング探鳥会の目指すべき方向性の確認や共通課題の抽出などをおこないたいと思います。

A-③「野鳥の会育ちの子供たちが社会を変える」 笠原逸子(神奈川支部)

支部や財団の中で、子どもを対象とした事業を行うためにはどのような環境が必要なのかについて考えてみたいと思います。

東富士支部で長年取り組んできた「キッズ」の取り組みをご紹介いただき(予定)、子どもたちから支部の探鳥会で育ち、現在では支部の活動を支えている方からご自身の体験談をお聞かせします。

21日 分科会B(2日目)

B-①「お試し会員を増やそう！探鳥会の進め方」 樋口公平(神奈川支部)

現在全国で展開中の「会員を増やすための探鳥会」。「参加者の中からもなるべく多くの方にお試し入会してもらいたい」が全国の皆さん共通の気持ちだと思います。少しでも多くの方にお試し会員になってもらうにはどうすればいいのか。ここでは営業の視点で心の流れをウォッチングする「マインドフロー」という方法を提案します。これらがたたき台となり、各地で色々な方法が確立していくとうれしいです。

B-②「さて困った、野鳥の会の底力 ～サギ調査の課題を解決する～」 新實豊(愛知県支部)

愛知県支部が行っているサギコロニー調査。実はこの調査を始めた当初、大きな課題にぶち当たりました。分科会ではその課題を皆さんならどう解決するかを考えてみたいと思います。実際に愛知県支部であったケースを題材にした設定の中で、参加者同士で議論して解決策を導き出します。

B-③「葛西臨海公園オリンピックからラムサールへ～登録後の利活用を考えよう～」

落合はるな(東京)

かつてオリンピック会場問題で揺れた葛西臨海公園(東京都江戸川区)。現在は開発の危機は去り、日本野鳥の会東京による、ラムサール条約登録の運動が行われています。

この分科会では、ラムサール条約に登録されたフィールドの保全と利用に対して、日本野鳥の会の会員のネットワークを生かしてどんなことができるか考えていきたいです。

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信 11月号の電子メール版の購読者数は、先月より5名増えて815名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表3. 探鳥会スタッフ通信 11月号電子メール版の購読者数（2017年11月13日現在）

| 支部 | 購読者数 | 支部 | 購読者数 |
|---------|------|------------------|------|
| オホーツク支部 | 6 | 長野支部 | 1 |
| 根室支部 | 0 | 軽井沢支部 | 1 |
| 釧路支部 | 2 | 諏訪 | 7 |
| 十勝支部 | 1 | 木曾支部 | 1 |
| 旭川支部 | 3 | 伊那谷支部 | 1 |
| 滝川支部 | 1 | 甲府支部 | 4 |
| 道北支部 | 1 | 富士山麓支部 | 0 |
| 江別支部 | 0 | 東富士 | 0 |
| 札幌支部 | 4 | 沼津支部 | 3 |
| 小樽支部 | 3 | 南富士支部 | 3 |
| 苫小牧支部 | 2 | 南伊豆 | 2 |
| 室蘭支部 | 5 | 静岡支部 | 2 |
| 函館支部 | 0 | 遠江 | 9 |
| 道南桧山 | 1 | 愛知県支部 | 45 |
| 青森県支部 | 1 | 岐阜 | 5 |
| 弘前支部 | 5 | 三重 | 19 |
| 秋田県支部 | 3 | 奈良支部 | 2 |
| 山形県支部 | 4 | 和歌山県支部 | 4 |
| 宮古支部 | 1 | 滋賀 | 19 |
| もりおか | 4 | 京都支部 | 30 |
| 北上支部 | 2 | 大阪支部 | 26 |
| 宮城県支部 | 39 | ひょうご | 16 |
| ふくしま | 4 | NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 | 10 |
| 郡山支部 | 1 | 島根県支部 | 12 |
| 二本松 | 1 | 岡山県支部 | 28 |
| 白河支部 | 2 | 広島県支部 | 9 |
| 会津支部 | 2 | 山口県支部 | 3 |
| 奥会津連合 | 0 | 香川県支部 | 6 |
| いわき支部 | 1 | 徳島県支部 | 6 |
| 福島県相双支部 | 0 | 高知支部 | 1 |
| 南相馬 | 0 | 愛媛 | 15 |
| 茨城県 | 22 | 北九州 | 11 |
| 栃木 | 59 | 福岡支部 | 12 |
| 群馬 | 24 | 筑豊支部 | 21 |
| 吾妻 | 1 | 筑後支部 | 5 |
| 埼玉 | 38 | 佐賀県支部 | 5 |
| 千葉県 | 21 | 長崎県支部 | 1 |
| 東京 | 65 | 熊本県支部 | 14 |
| 奥多摩支部 | 48 | 大分県支部 | 4 |
| 神奈川支部 | 21 | 宮崎県支部 | 4 |
| 新潟県 | 2 | 鹿児島 | 3 |
| 佐渡支部 | 1 | やんばる支部 | 0 |
| 富山 | 3 | 石垣島支部 | 1 |
| 石川 | 29 | 西表支部 | 1 |
| 福井県 | 10 | 合計 | 815 |

(普及室)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアド

レス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

こちらは、近所の公園でも小鳥たちの声がたくさん聞こえるようになってきました。ツグミやジョウビタキが見られるのを、わくわくしながら待っているところです。

これからの探鳥会は、鳥も人も賑やかになってくるかと思えます。もしも、探鳥会リーダーの方などで、まだこの通信を購読していない方がお近くにいらっしゃいましたら、購読を勧めていただけたら嬉しいです。（※探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます）

また、今月 11 月号の野鳥誌の、財団職員が仕事などの紹介をするコーナー「PICK UP」で、探鳥会スタッフ通信についての記事を書きました。もしよろしければご覧ください。野鳥誌が発行されたので、ようやくご報告できて嬉しいです。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第56号

◆発行

(公財)日本野鳥の会 2017年11月17日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2622

FAX : 03-5436-2635

E-mail : tancho-staff@wbsj.org
